



なかしん

中小企業景況レポート

No.54 中栄信用金庫 地域支援部

2025年1月～3月実績と2025年4月～6月見込み

◆調査概要

調査時期 2025年3月上旬
調査地域 秦野市、伊勢原市、平塚市、厚木市、開成町
調査企業数 340社
回答企業数 322社

【調査先及び回答状況】

	調査先	回答数	回答率
製造業	94	88	93.6
卸売業	28	28	100.0
小売・飲食業	65	61	93.8
サービス業	51	46	90.1
建設業	65	64	98.4
不動産業	37	35	94.5
合計	340	322	94.7

◆1月～3月期の概況

～4割超の企業が賃上げを実施。既存従業員の就労条件改善を目論む～

当金庫主要営業地区内における中小企業を対象に景気動向調査を実施した結果、全業種総合の業況判断 D.I. は▲15.9を示し、前回調査（2024年10～12月期）に比べ8.7ポイントの悪化となりました。

今期の調査では、年末需要に対する反動減という季節的要因に加え、物価高を背景とする原材料・仕入価格高騰に伴う収益環境の悪化や人手不足感の強まりによる受注の機会損失ならびに従業員の高齢化といった人繰りへの対応等に苦慮する企業が多くみられたことにより、不動産業を除く5業種において業況判断 D.I. の悪化となっております。

また、特別調査では今春の定期昇給及びベースアップへの対応について問いかけたところ、定期昇給もしくはベースアップを予定していると回答した企業は4割超となっており、賃金の引き上げ率については「1～2%程度」と回答した企業が最も多くなっております。また、賃上げを実施する理由については、「従業員の勤労意欲向上を目指すため」と回答した企業が最も多く人手不足感が強まる中、既存従業員の就労条件改善に取り組む企業が多くみられております。

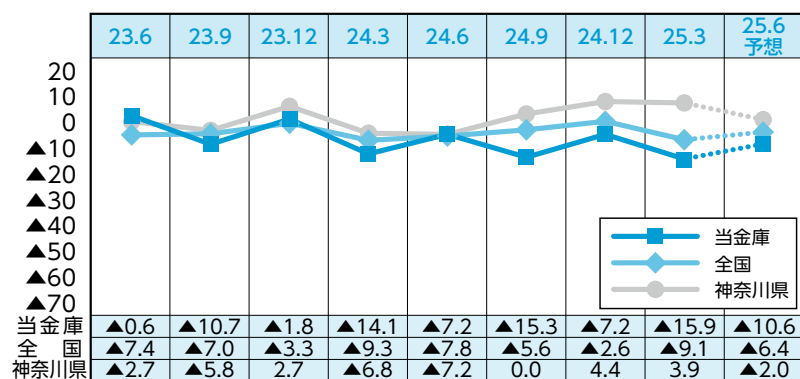
項目別にみると、売上額実績 D.I. は20.4ポイント悪化の▲12.9、収益実績 D.I. は13.2ポイント悪化の▲15.7となっております。仕入価格 D.I. は5.3ポイント改善の49.8、資金繰り D.I. は1.2ポイント小幅改善の▲14.5、人手過不足 D.I. は1.2ポイント弱まり▲34.0となっております。また、業種別の景況感是不動産業が14.3ポイント改善の▲5.7、製造業が5.2ポイント悪化の▲28.8、卸売業が7.2ポイント悪化の▲25.0、小売・飲食業が11.6ポイント悪化の▲26.6、サービス業が15.2ポイント悪化の▲13.0、建設業が18.2ポイント悪化の7.9となっております。（業種別の詳細につきましては次頁以降をご参照ください。）

なお、全国の中小企業業況判断 D.I. は6.5ポイント悪化の▲9.1、神奈川県内につきましては0.5ポイント小幅悪化の3.9となっております。（全国と神奈川県の D.I. 値につきましては信金中央金庫による調査に基づいております。以下同様。）

◆4月～6月期の見通し

来期の業況判断予想は5.3ポイント改善の▲10.6、売上額 D.I. は20.2ポイント改善の7.3、収益 D.I. は12.3ポイント改善の▲3.4の見通しとなっております。

業況判断 D.I. 値（全業種）



全国、神奈川県の業況判断 D.I. 値は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所が全国約 16,000（うち神奈川県 約 480）の中小企業を対象に実施している「全国中小企業景気動向調査」の調査データに基づいております。

D.I. 値とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から、「悪い」「やや悪い」と回答した企業の割合を引いた値です。値が小さいほど業況判断は悪いということになります。

業種別景気天気図

	前 期	今 期	予 想
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小売・飲食業			
サービス業			
建 設 業			
不 動 産 業			

※この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しました。

好調 ← → 低調
良い 悪い

製造業

概況

製造業の業況判断 D.I. は前回調査比 5.2 ポイント悪化の▲28.8 となりました。項目別では、売上額 D.I. は前回調査比 28.8 ポイント悪化の▲25.3、収益 D.I. は 20.6 ポイント悪化の▲25.3 となっております。

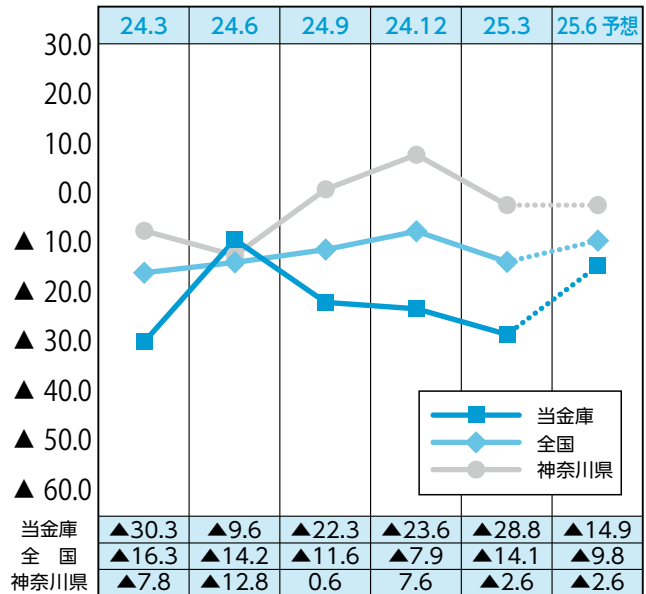
今期の受注状況については、期末における元請企業の在庫・生産調整や海外情勢の不透明感等を背景に、主要取引先からの受注状況は横ばいもしくは減少傾向と回答する企業がみられており、経営上の問題点についても約 6 割の企業が「売上の停滞・減少」と回答しております。

また、「人手不足」と回答した企業数が前回調査から増加していることに加え、人手過不足 D.I. も▲21.8 とマイナス域で推移していることから不足感が強まっており、対応策として技能実習や特定技能制度による外国人材の活用を検討する企業のほか、省力化を目的とした設備投資に取り組む企業などがみられております。

なお、全国は 6.2 ポイント悪化の▲14.1 となっており、神奈川県は 10.2 ポイント悪化の▲2.6 となっております。

来期の予想業況判断につきましては 13.9 ポイント改善の▲14.9 となっております。

業況判断 D.I. 値



売上額

前期実績	36.4	30.7	32.9	D.I. 3.5
当期実績	14.9	44.9	40.2	▲25.3
来期予想	33.3	44.9	21.8	11.5
前年同期比	25.2	26.6	48.2	▲23.0

販売価格

前期実績	21.1	74.2	4.7	D.I. 16.4
当期実績	8.0	90.9	1.1	6.9
来期予想	6.8	89.8	3.4	3.4

在庫

前期実績	10.5	84.8	4.7	D.I. 5.8
当期実績	9.1	86.4	4.5	4.6
来期予想	6.8	89.8	3.4	3.4

人手

前期実績	10.5	62.5	27.0	D.I. ▲16.5
当期実績	10.3	57.6	32.1	▲21.8
来期予想	8.0	64.5	27.5	▲19.5

収益

前期実績	29.4	36.5	34.1	D.I. ▲4.7
当期実績	10.3	54.1	35.6	▲25.3
来期予想	21.8	53.0	25.2	▲3.4
前年同期比	21.8	26.5	51.7	▲29.9

原材料価格

前期実績	43.5	53.0	3.5	D.I. 40.0
当期実績	41.3	57.6	1.1	40.2
来期予想	34.4	64.5	1.1	33.3

資金繰り

前期実績	5.8	70.7	23.5	D.I. ▲17.7
当期実績	5.7	72.5	21.8	▲16.1
来期予想	6.8	76.0	17.2	▲10.4

設備状況

前期実績	9.4	75.4	15.2	D.I. ▲5.8
当期実績	6.8	82.9	10.3	▲3.5
来期予想	4.5	87.5	8.0	▲3.5

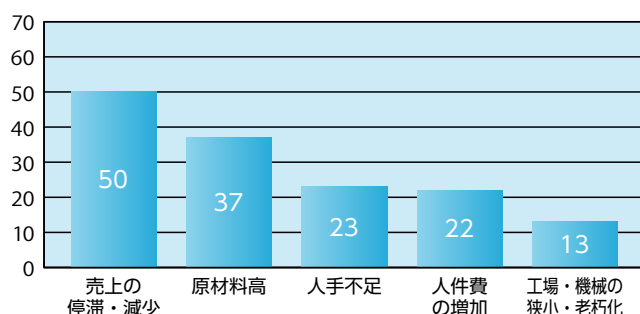
当期実績…2025 年 1～3 月期
来期予想…2025 年 4～6 月期

□ 良い、増加、上昇
過剰、楽

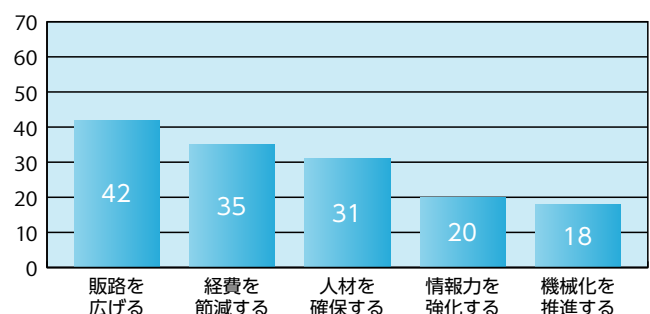
□ 普通、変わらず
適正

□ 悪い、減少、下降
不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



卸売業

概況

卸売業の業況判断 D.I. は前回調査比 7.2 ポイント悪化の▲25.0 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 7.1 ポイント悪化の▲14.2、収益 D.I. は 17.9 ポイント悪化の▲25.0 となっております。

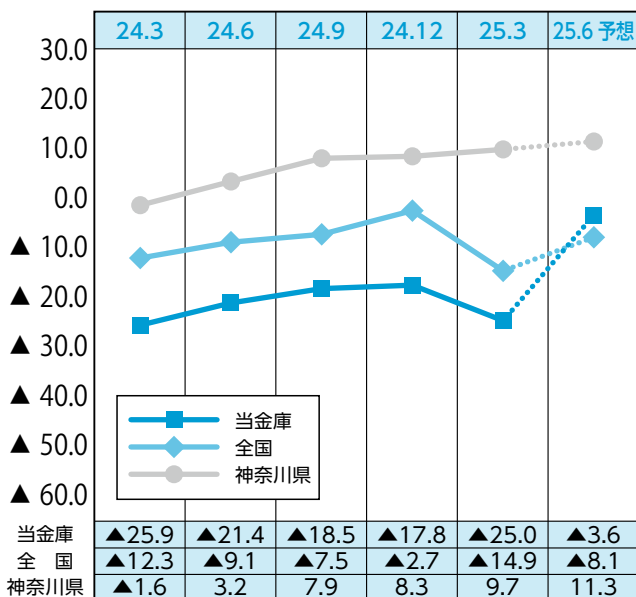
今期の卸売業では、物価高を背景とする仕入価格高騰ならびに燃料費高騰等の影響を受け、収益環境の悪化がみられたことに加え、価格転嫁の状況についても値上げによる顧客離れを危惧し、価格転嫁を見送る企業がみられております。

また、売上高についても経営上の問題点として「売上の停滞・減少」と回答した企業が最も多く、年末需要に対する反動減の影響がみられており、総じて業況判断 D.I. の悪化となっております。

なお、全国は 12.2 ポイント悪化の▲14.9 となっており、神奈川県は 1.4 ポイント小幅改善の 9.7 となっております。

来期の予想業況判断につきましては 21.4 ポイント改善の▲3.6 となっております。

業況判断 D.I. 値



売上額

前期実績	21.4	50.1	28.5	D.I. ▲7.1
当期実績	25.0	35.8	39.2	▲14.2
来期予想	42.8	39.4	17.8	25.0
前年同期比	28.5	39.4	32.1	▲3.6

販売価格

前期実績	35.7	53.6	10.7	D.I. 25.0
当期実績	39.2	57.3	3.5	35.7
来期予想	35.7	57.2	7.1	28.6

在庫

前期実績	3.5	82.3	14.2	D.I. ▲10.7
当期実績	10.7	78.6	10.7	0.0
来期予想	7.1	85.8	7.1	0.0

人手

前期実績	10.7	50.1	39.2	D.I. ▲28.5
当期実績	64.3	35.7		▲35.7
来期予想	3.5	68.0	28.5	▲25.0

収益

前期実績	25.0	42.9	32.1	D.I. ▲7.1
当期実績	14.2	46.6	39.2	▲25.0
来期予想	28.5	53.7	17.8	10.7
前年同期比	21.4	57.2	21.4	0.0

仕入価格

前期実績	64.2	35.8		D.I. 64.2
当期実績	57.1	39.4	3.5	53.6
来期予想	57.1	42.9		57.1

資金繰り

前期実績	10.7	57.2	32.1	D.I. ▲21.4
当期実績	7.4	63.0	29.6	▲22.2
来期予想	7.1	67.9	25.0	▲17.9

設備状況

前期実績	3.5	82.3	14.2	D.I. ▲10.7
当期実績	85.8	14.2		▲14.2
来期予想	82.2	17.8		▲17.8

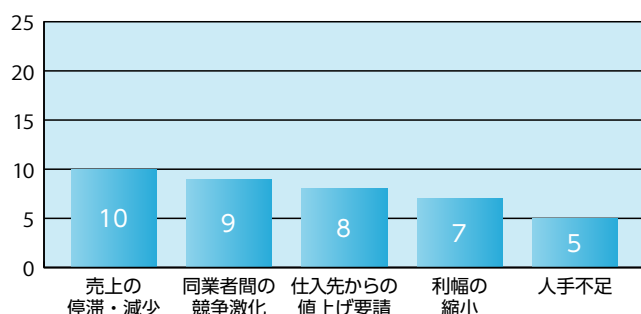
当期実績…2025 年 1～ 3 月期
来期予想…2025 年 4～ 6 月期

□ 良い、増加、上昇
過剰、楽

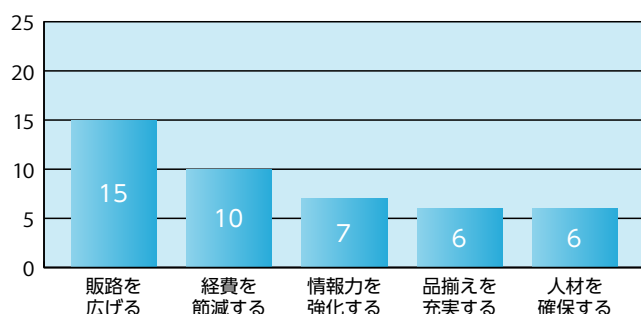
□ 普通、変わらず
適正

□ 悪い、減少、下降
不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



小売・飲食業

概況

小売・飲食業の業況判断 D.I. は前回調査比 11.6 ポイント悪化の▲26.6 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 15 ポイント悪化の▲15.0、収益 D.I. は 0.1 ポイント小幅悪化の▲21.7 となっております。

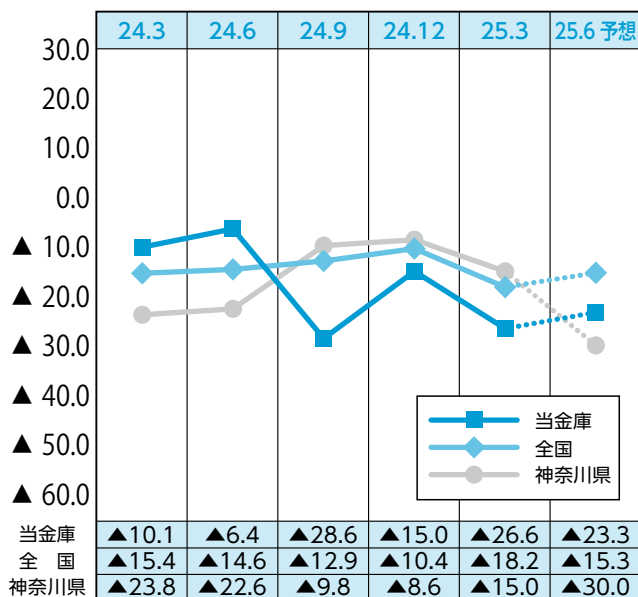
足許の実質賃金が伸び悩み消費者の節約志向が続く中、今期小売・飲食業では、年末需要の反動減に加え、物価高を背景とする仕入価格高騰に対する価格転嫁の状況も値上げによる顧客離れを危惧し、価格転嫁を見送る企業がみられるなど、厳しい収益環境が続いております。

また、売上についても経営上の問題点として最も多い回答が「売上の停滞・減少」であることに加え、売上額 D.I. についても▲15.0 とマイナス域での推移となっており、対応に苦慮する企業は多く、今後に向けた対策として新メニューの開発や新たな販売チャネル構築といった、既存の枠組みからの脱却に取り組む動きがみられております。

なお、全国は 7.8 ポイント悪化の▲18.2 となっており、神奈川県は 6.4 ポイント悪化の▲15.0 となっております。

来期の予想業況判断につきましては 3.3 ポイント改善の▲23.3 となっております。

業況判断 D.I. 値



売上額

前期実績	26.6	46.8	26.6	D.I. 0.0
当期実績	26.6	31.8	41.6	▲15.0
来期予想	35.0	40.0	25.0	10.0
前年同期比	30.0	36.7	33.3	▲3.3

販売価格

前期実績	46.6	50.1	3.3	D.I. 43.3
当期実績	36.6	58.4	5.0	31.6
来期予想	46.6	53.4		46.6

在庫

前期実績	11.6	81.8	6.6	D.I. 5.0
当期実績	3.3	86.7	10.0	▲6.7
来期予想	5.0	86.7	8.3	▲3.3

人手

前期実績	5.0	66.7	28.3	D.I. ▲23.3
当期実績	1.6	66.8	31.6	▲30.0
来期予想	1.6	63.4	35.0	▲33.4

収益

前期実績	20.0	38.4	41.6	D.I. ▲21.6
当期実績	21.6	35.1	43.3	▲21.7
来期予想	28.3	40.1	31.6	▲3.3
前年同期比	25.0	33.4	41.6	▲16.6

仕入価格

前期実績	68.3	31.7		D.I. 68.3
当期実績	61.6	31.8	6.6	55.0
来期予想	63.3	36.7		63.3

資金繰り

前期実績	3.3	60.1	36.6	D.I. ▲33.3
当期実績	6.6	58.4	35.0	▲28.4
来期予想	3.3	65.1	31.6	▲28.3

設備状況

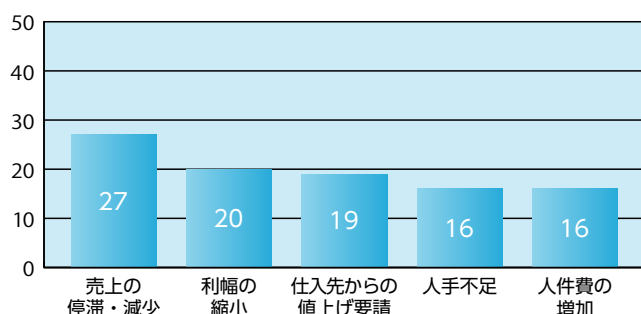
前期実績	88.4	11.6		D.I. ▲11.6
当期実績	1.6	86.8	11.6	▲10.0
来期予想	1.6	86.8	11.6	▲10.0

当期実績…2025 年 1～ 3 月期
来期予想…2025 年 4～ 6 月期

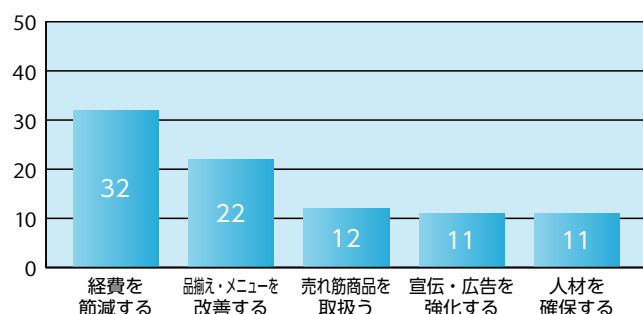
□ 良い、増加、上昇
□ 普通、変わらず
□ 悪い、減少、下降

□ 過剰、楽
□ 適正
□ 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



サービス業

概況

サービス業の業況判断 D.I. は前回調査比 15.2 ポイント悪化の▲13.0 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 30.6 ポイント悪化の▲19.5、収益 D.I. は 35.1 ポイント悪化の▲21.7 となっております。

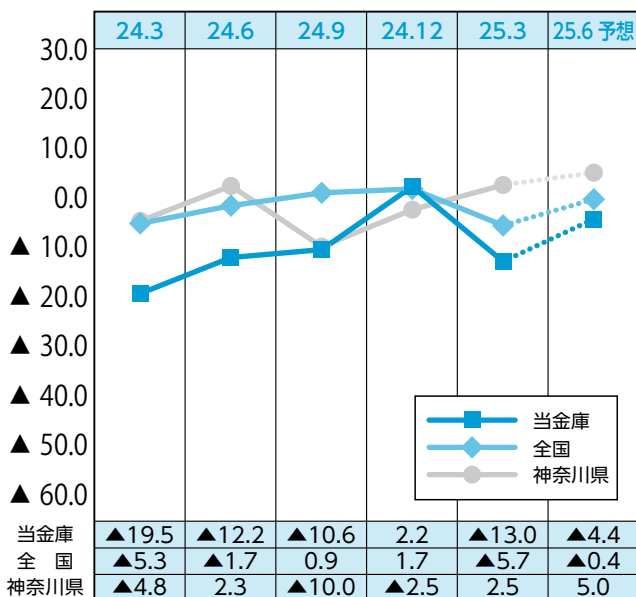
今期につきましては、年末需要に対する反動減の影響を受け、運送・運輸・観光業等を中心にサービス利用者数の減少がみられております。

また、経営上の問題点として最も多い回答は「人手不足」であることから、足許の人手不足感が強まっております。特に理美容業や医療・介護業に対する影響は大きく、施設管理者やサービス提供者の休職・退職に伴い対応可能な受注量に制約がかかり、売上確保に苦慮する企業がみられていることから売上額 D.I. の悪化となっております。

なお、全国は 7.4 ポイント悪化の▲5.7 となっており、神奈川県は 5 ポイント改善の 2.5 となっております。

来期の予想業況判断につきましては 8.6 ポイント改善の▲4.4 となっております。

業況判断 D.I. 値



売上額

前期実績	31.1	48.9	20.0	D.I. 11.1
当期実績	15.2	50.1	34.7	▲19.5
来期予想	30.4	45.7	23.9	6.5
前年同期比	30.4	47.9	21.7	8.7

料金価格

前期実績	15.5	84.5		D.I. 15.5
当期実績	15.2	84.8		15.2
来期予想	19.5	76.2	4.3	15.2

資金繰り

前期実績	15.5	62.3	22.2	D.I. ▲6.7
当期実績	4.3	78.4	17.3	▲13.0
来期予想	4.3	74.0	21.7	▲17.4

設備状況

前期実績	2.2	75.6	22.2	D.I. ▲20.0
当期実績	4.3	76.2	19.5	▲15.2
来期予想	4.3	74.0	21.7	▲17.4

当期実績…2025 年 1～ 3 月期
来期予想…2025 年 4～ 6 月期

□ 良い、増加、上昇
□ 普通、変わらず
□ 悪い、減少、下降

収益

前期実績	31.1	51.2	17.7	D.I. 13.4
当期実績	13.0	52.3	34.7	▲21.7
来期予想	28.2	45.8	26.0	2.2
前年同期比	23.9	47.9	28.2	▲4.3

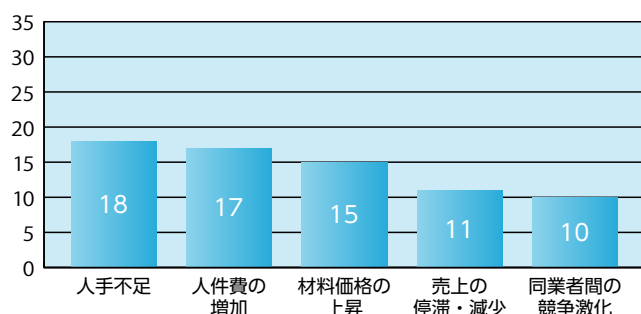
材料価格

前期実績	51.1	48.9		D.I. 51.1
当期実績	52.1	43.6	4.3	47.8
来期予想	43.4	56.6		43.4

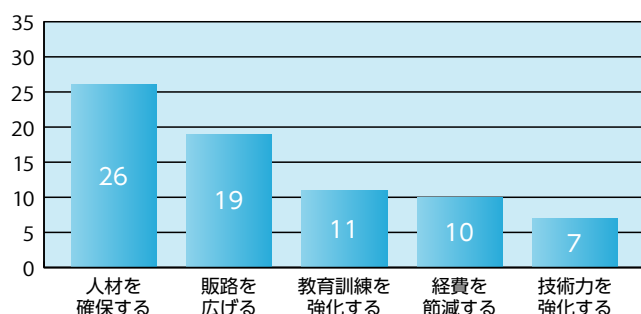
人手

前期実績	2.2	42.3	55.5	D.I. ▲53.3
当期実績	54.4	45.6		▲45.6
来期予想	52.2	47.8		▲47.8

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



建設業

概況

建設業の業況判断 D.I. は前回調査比 18.2 ポイント悪化の 7.9 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 37.1 ポイント悪化の▲4.8、収益 D.I. は 15.4 ポイント悪化の▲3.1 となっております。

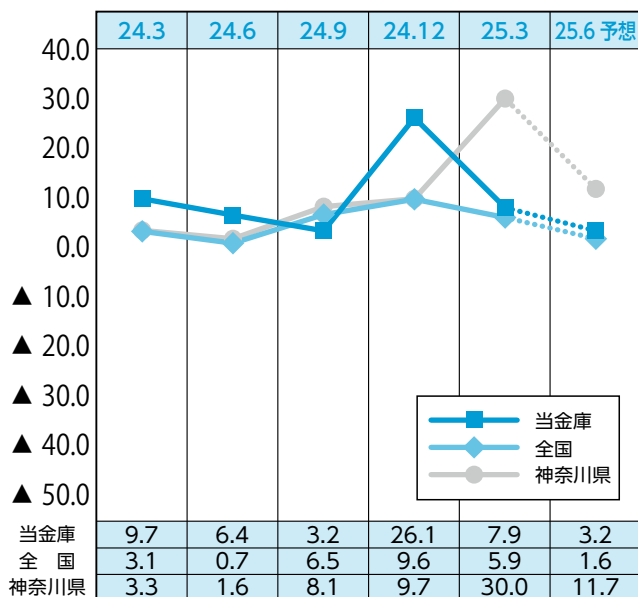
足許の受注状況については、事業用建物を始めとする堅調な建設需要を背景に主要取引先からの施工依頼数は安定的に推移しており、業況判断 D.I. につきましても 8 期連続のプラス域で推移しております。

一方、人手の状況については、人手過不足 D.I. が▲51.6 と高止まりしていることに加え、経営上の問題点として「人手不足」と回答した企業は全体の 6 割以上みられるなど、依然不足感は強く、受注の機会損失や人件費上昇に加え、従業員の高齢化や協力企業の廃業等の問題が常態化しております。

なお、全国は 3.7 ポイント悪化の 5.9 となっており、神奈川県は 20.3 ポイント改善の 30.0 となっております。

来期の予想業況判断につきましても 4.7 ポイント悪化の 3.2 となっております。

業況判断 D.I. 値



売上額

前期実績	50.7	30.9	18.4	D.I. 32.3
当期実績	26.9	41.4	31.7	▲4.8
来期予想	17.4	63.6	19.0	▲1.6
前年同期比	27.4	42.0	30.6	▲3.2

請負価格

前期実績	32.3	63.1	4.6	D.I. 27.7
当期実績	26.9	65.2	7.9	19.0
来期予想	30.1	65.2	4.7	25.4

在庫

前期実績	7.8	87.6	4.6	D.I. 3.2
当期実績	6.3	90.6	3.1	3.2
来期予想	6.3	92.2	1.5	4.8

人手

前期実績	35.4	64.6		D.I. ▲64.6
当期実績	3.2	42.0	54.8	▲51.6
来期予想	1.6	43.6	54.8	▲53.2

収益

前期実績	30.7	50.9	18.4	D.I. 12.3
当期実績	23.8	49.3	26.9	▲3.1
来期予想	19.0	52.5	28.5	▲9.5
前年同期比	22.5	48.5	29.0	▲6.5

材料価格

前期実績	78.4	21.6	D.I. 78.4
当期実績	73.0	27.0	73.0
来期予想	71.4	28.6	71.4

資金繰り

前期実績	6.1	81.6	12.3	D.I. ▲6.2
当期実績	11.1	73.1	15.8	▲4.7
来期予想	12.6	73.2	14.2	▲1.6

設備状況

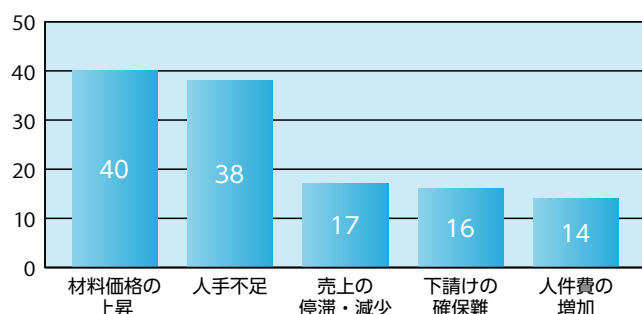
前期実績	3.1	89.1	7.8	D.I. ▲4.7
当期実績	3.2	95.2	1.6	1.6
来期予想		96.8	3.2	▲3.2

当期実績…2025 年 1～3 月期
来期予想…2025 年 4～6 月期

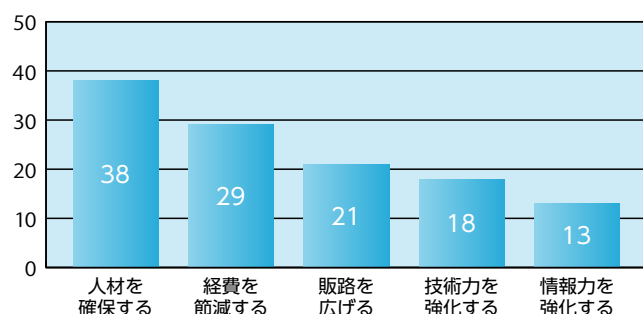
□ 良い、増加、上昇
□ 普通、変わらず
□ 悪い、減少、下降

□ 過剰、楽
□ 適正
□ 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



不動産業

概況

不動産業の業況判断 D.I. は前回調査から 14.3 ポイント改善の▲5.7 となりました。項目別では、売上額 D.I. は 25.6 ポイント改善の 17.1、収益 D.I. は 20 ポイント改善の 11.4 となっております。

当金庫営業エリア内における商品仕入状況については、市場の商品不足に伴う同業者間の競争激化に加え、土地造成費高騰に伴う仕入コスト上昇の影響により、仕入価格の高騰がみられております。

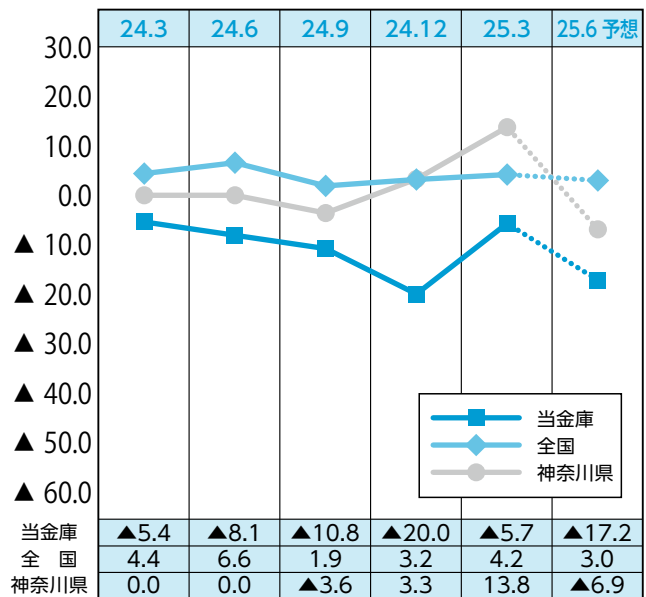
また、在庫の状況についても在庫高 D.I. が▲42.8 と 2 期連続の悪化となっており、背景には、造成工事業者の人手不足に伴う工事期間長期化の影響がみられております。

商品販売状況については、地域によって売れ行きにバラツキがみられており、県東部や湘南エリアでは不動産取引に動きがみられるものの、当金庫営業エリア内においては、販売状況に陰りがみられております。

なお、全国は 1 ポイント小幅改善の 4.2 となっており、神奈川県は 10.5 ポイント改善の 13.8 となっております。

来期の予想業況判断につきましては 11.5 ポイント悪化の▲17.2 となっております。

業況判断 D.I. 値



売上額

前期実績	25.7	40.1	34.2	D.I. ▲8.5
当期実績	37.1	42.9	20.0	17.1
来期予想	28.5	37.3	34.2	▲5.7
前年同期比	25.7	42.9	31.4	▲5.7

販売価格

前期実績	20.0	60.0	20.0	D.I. 0.0
当期実績	20.0	65.8	14.2	5.8
来期予想	20.0	68.6	11.4	8.6

在庫

前期実績	5.7	48.6	45.7	D.I. ▲40.0
当期実績	5.7	45.8	48.5	▲42.8
来期予想	5.7	42.9	51.4	▲45.7

人手

前期実績	71.5	28.5		D.I. ▲28.5
当期実績	77.2	22.8		▲22.8
来期予想	77.2	22.8		▲22.8

収益

前期実績	22.8	45.8	31.4	D.I. ▲8.6
当期実績	28.5	54.4	17.1	11.4
来期予想	20.0	48.6	31.4	▲11.4
前年同期比	20.0	45.8	34.2	▲14.2

仕入価格

前期実績	28.5	65.8	5.7	D.I. 22.8
当期実績	25.7	71.5	2.8	22.9
来期予想	25.7	71.5	2.8	22.9

資金繰り

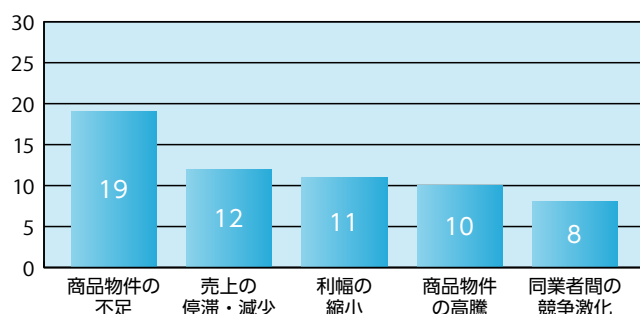
前期実績	5.7	82.9	11.4	D.I. ▲5.7
当期実績	11.4	77.2	11.4	0.0
来期予想	14.2	77.3	8.5	5.7

当期実績…2025 年 1～ 3 月期
来期予想…2025 年 4～ 6 月期

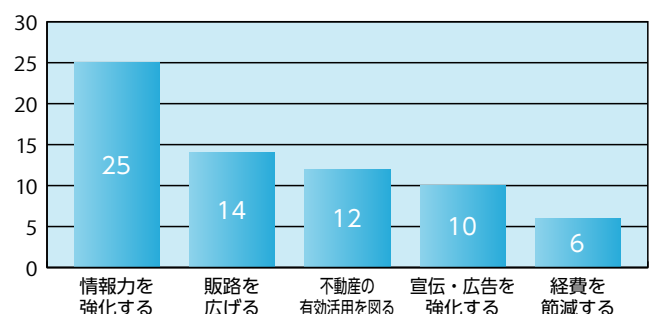
□ 良い、増加、上昇
□ 普通、変わらず
□ 悪い、減少、下降

□ 過剰、楽
□ 適正
□ 不足、苦しい

経営上の問題点 (複数回答)



当面の重点経営施策 (複数回答)



当金庫のお客さま 340 社にお願いして特別調査を実施いたしました。

問 1. 貴社では、今期（1 月～3 月）において、原材料価格及びエネルギー価格等の高騰や円安の進行に伴う物価高騰に対しどの程度販売価格への転嫁をおこなっていますか。あてはまるものを 1 つ選んでお答えください。

- | | | | |
|---------------------------|------|---------------------------------|------|
| ○ 価格高騰分の 90% 以上を転嫁できている … | 42 社 | ○ 価格高騰分の 10% 以上を転嫁できている … | 64 社 |
| ○ 価格高騰分の 70% 以上を転嫁できている … | 30 社 | ○ 価格高騰分をほぼ転嫁できていない（10% 未満の増減） … | 88 社 |
| ○ 価格高騰分の 50% 以上を転嫁できている … | 37 社 | ○ 10% 以上販売価格が減少している … | 2 社 |
| ○ 価格高騰分の 30% 以上を転嫁できている … | 30 社 | ○ 30% 以上販売価格が減少している … | 0 社 |

問 2. 足許における人手不足感が強まる中、貴社における外国人労働者の雇用状況についてお伺い致します。現在雇用している場合は従業員全体に占める外国人労働者の割合を左側の回答欄から 1 つ選んでお答えください。また、現在雇用していない場合は、外国人労働者を雇用していない理由を右側の回答欄から 1 つ選んでお答えください。

- | 従業員全体に占める外国人労働者の割合 | 外国人労働者を雇用していない理由 |
|--------------------|-----------------------------|
| ○ 50% 以上 … | ○ 現在人手は足りているため、必要がない … |
| ○ 30% 以上～50% 未満 … | ○ 受入負担（就労環境整備・育成コスト等）が重い … |
| ○ 10% 以上～30% 未満 … | ○ 雇用の方法や行政手続き等が分からない … |
| ○ 10% 未満 … | ○ 言語の面等からコミュニケーションに不安点がある … |
| | ○ その他 … |

問 3. 貴社では、外国人労働者を採用することにより期待される効果ならびに採用する際の雇用形態はどのような形態ですか。期待する効果については左側の回答欄から。雇用形態については右側の回答欄からあてはまるものを 1 つ選んでお答えください。外国人労働者を雇用していない企業については、採用すると仮定した場合について想定されるものをそれぞれお答えください。

- | 外国人労働者の採用により期待する効果 | 外国人労働者を採用する際の雇用形態 |
|------------------------|-------------------|
| ○ 専門技術を活かした業務遂行 … | ○ 正規社員形態 … |
| ○ 外国語能力を活かした業務遂行 … | ○ パートタイム形態 … |
| ○ 異なる文化形態を内包した多様性の促進 … | ○ 短期契約形態（1 年未満） … |
| ○ 労働力確保による人手不足の解消 … | ○ 長期契約形態（1 年以上） … |
| ○ その他 … | ○ その他 … |

問 4. 貴社では今春における定期昇給及びベースアップについてどのように考えていますか。左側の定期昇給・ベースアップの有無の内、あてはまるものを 1 つ選んでお答えください。また、左側の回答の内「定期昇給の他、ベースアップを予定している・ベースアップは行わず、定期昇給のみに留める予定」と回答した場合には右側の引き上げ率についてもあてはまるものを 1 つ選んでお答えください。

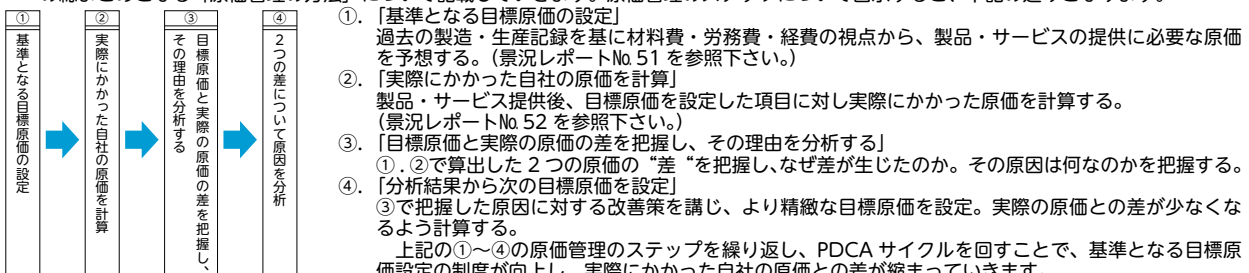
- | 定期昇給・ベースアップの有無 | 賃金に対する引き上げ率 |
|-------------------------------|------------------|
| ○ 定期昇給の他、ベースアップを予定している … | ○ 0～1% 程度引き上げる … |
| ○ ベースアップは行わず、定期昇給のみに留める予定 … | ○ 1～2% 程度引き上げる … |
| ○ ベースアップ、定期昇給共に行わず現状を維持する予定 … | ○ 2～3% 程度引き上げる … |
| ○ 賃金引下げを予定している … | ○ 3～4% 程度引き上げる … |
| ○ 現在未定である … | ○ 4% 以上引き上げる … |

問 5. 問 4 の定期昇給・ベースアップの有無の質問の回答の内「定期昇給の他、ベースアップを予定している・ベースアップは行わず、定期昇給のみに留める予定」と回答した企業は「賃上げを実施する理由」の内あてはまるものを 1 つ、それ以外の回答した企業は「賃上げを見送る・未定である理由」の内あてはまるものを 1 つ選んでお答えください。

- | 賃上げを実施する理由 | 賃上げを見送る・未定である理由 |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| ○ 従業員の勤労意欲向上を目指すため … | ○ 現状の収益構造では賃上げを実施することが難しいため … |
| ○ 物価高による社員の生活水準を維持するため … | ○ 仕入やその他コスト上昇により収益環境が悪化しているため … |
| ○ 採用活動にむけて募集賃金や初任給を引き上げる必要があると考えたため … | ○ 既に十分な賃金水準であると考えため … |
| ○ 世間や他社の賃上げ動向に合わせるため … | ○ 賃上げする理由や必要性がないと考えため … |
| ○ その他 … | ○ その他 … |

経営のポイント「原価管理について」

昨年 4 月より「原価管理の必要性」「原価とはどのように算出するのか」「原価計算」についてそれぞれ記載してきましたが、今回はこれらの総まとめとなる「原価管理の方法」について記載していきます。原価管理のステップについて図示すると、下記の通りとなります。



その結果として、①. 適切な利益の確保ならびに利益の最大化。②. 原価変動に対する早期対応。③. 自社の利益構造の理解。に繋がり、企業が事業活動を通じて継続的に利益を上げていく仕組みが作成されます。

上記内容を参考に、自社における原価管理の方法について一度確認してみるのはいかがでしょうか。ご不明な点等ありましたら、お近くの中栄信用金庫までお気軽にご相談下さい。